

金木犀その1

2021. 10. 21

今年は、9月12日（日）だった。季節が晩夏から初秋へと移る時期に、毎年「今年もこの季節がやってきたか。秋だなあ」と思わせてくれることがある。それは、金木犀（キンモクセイ）のほのかな香りである。ふわっと匂い立つ何とも言えない香りである。

朝、外に出ると、いい香りがしてくる。天候は穏やかで風もない。9月13日（月）も14日（火）も、外に出ると香りがした。今まで、そんなことをしたことはなかったのだが、愛用のスケジュール帳にメモをしておいた。今年の“金木犀の日”である。

14日（火）は、野田中学校の校舎にいても、校長室でも金木犀の香りがした。どこかにあるのだろうか、うろうろしていると、運よく作業中のSSS（スクールサポートスタッフ）のHさんがいらした。「Hさん、金木犀の香りがしますよね」「します。します。中庭にあります」と教えてもらった。「ここからだと見えます」と案内してもらった。オレンジ色の花を咲かせた金木犀の木を見つけた。

Hさん曰く「普通は10月に咲くんですが、今年は早いんです」とのことだった。「去年も9月だったように思うんですが」「年々早くなっているんです」「ちょっと調べてみたら10月に咲く花とありました」「調べたんですか。さすがですね」「いやいや花のことを何も知らない男なので」

「金木犀は匂いが強いんですが、銀木犀はやさしい匂いなんです」「中学1年生の国語の教科書の作品に銀木犀が出てくるんですよ。それで銀木犀を知ったんです」「そうなんですか」「もともと木犀というと銀木犀のことで、金木犀は変種なんだそうです」「そうですか。繁殖力が強かったのかもしれないね」Hさん、さすがである。

毎年思うのだが、金木犀の香りは、数日間ほどでなくなってしまう。調べてみた。開花して4、5日で散ってしまう儂い花だとわかった。Hさんは、「1週間ぐらいですかね」とおっしゃっていた。ついでに、香りの強い花をつける3つの樹木を三大香木と言うが、その一つであることもわかった。他の2つは沈丁花（じんちょうげ）とくちなしである。

金があるということは銀がある。それが銀木犀である。中学1年生の国語の教科書に『星の花が降るころに』という作品がある。文中に「銀木犀」が出てくる。それで、その存在を知った。Hさんは、ご存じだったが、一般的にはあまり知られてはいない花かもしれない。金木犀と同じモクセイ科の植物で、10月頃になると、白い花を咲かせる。

（次号に続く）